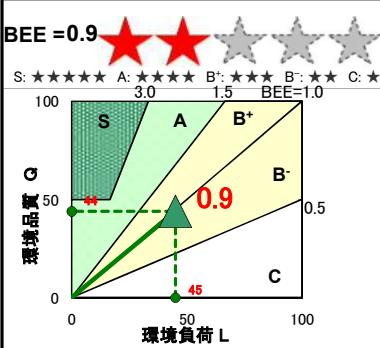


CASBEE あいち

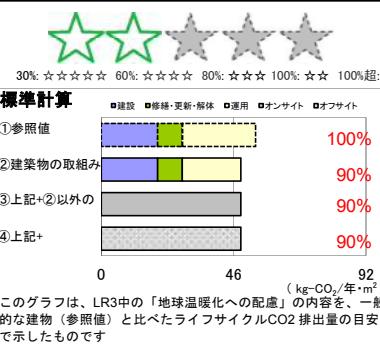
■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	八熊鍛金工業株式会社 知多工場	階数	地上2階
建設地	愛知県知多市八幡字浦浜1-50	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	30人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,400時間/年
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2019年2月18日
敷地面積	10,417 m ²	作成者	井谷 隼
建築面積	3,810 m ²	確認日	2019年2月22日
延床面積	4,117 m ²	確認者	林 秀行

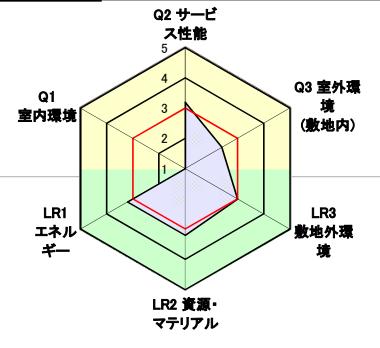
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質	Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q のスコア = 2.7	Q1のスコア = 0.0	Q2のスコア = 3.2	Q3のスコア = 2.4
	N.A. N.A. N.A. N.A.	機能性 2.9 耐用性 3.5 対応性	生物環境 2.0 まちなみ 3.0 地域性・ 2.0

LR 環境負荷低減性	LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR のスコア = 3.1	LR1のスコア = 3.2	LR2のスコア = 3.2	LR3のスコア = 3.0
	N.A. 自然エネ 4.0 設備シス 3.0 効率的 3.0	水資源 3.4 非再生材料の 3.1 汚染物質 3.6	地球温暖化 3.3 地域環境 2.5 周辺環境 3.1

3 重点項目

①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.3	2.0
	

外構緑化指標(外構緑化面積/外構面積)
6.2 %

建物緑化指標(建物緑化面積/建築面積)
0.0 %

②資源の有効活用

3.1



④地域材の活用

1.0



各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3.1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性
LR-2.2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
G-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指標 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指標 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート 実施設計段階		独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部		建物全体・共用部		宿泊		宿泊部分		全体
配慮項目	Q 建築物の環境品質		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	
Q1 室内環境	1 音環境												2.7
	1.1 室内騒音レベル												-
	1.2 遮音												-
	1 開口部遮音性能												-
	2 界壁遮音性能												-
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												-
	4 界床遮音性能(重量衝撃源)												-
	1.3 吸音												-
2 温熱環境	2.1 室温制御												-
	1 室温												-
	2 外皮性能												-
	3 ゾーン別制御性												-
	2.2 湿度制御												-
	2.3 空調方式												-
3 光・視環境	3.1 昼光利用												-
	1 昼光率												-
	2 方位別開口												-
	3 昼光利用設備												-
	3.2 グレア対策												-
	1 昼光制御												-
	3.3 照度												-
	3.4 照明制御												-
4 空気質環境	4.1 発生源対策												-
	1 化学汚染物質												-
	4.2 換気												-
	1 換気量												-
	2 自然換気性能												-
	3 取り入れ外気への配慮												-
	4.3 運用管理												-
	1 CO ₂ の監視												-
	2 喫煙の制御												-
Q2 サービス性能												0.43	3.2
1 機能性	1.1 機能性・使いやすさ												-
	1 広さ・収納性												-
	2 高度情報通信設備対応												-
	3 ハリアフリー計画	独自											-
	1.2 心理性・快適性												-
	1 広々感・景観 (天井高)												-
	2 リフレッシュスペース												-
	3 内装計画												-
	1.3 維持管理												-
	1 維持管理に配慮した設計												-
	2 維持管理用機能の確保												-
2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震・制震・制振											2.9	2.9
	1 耐震性(建物のこわれにくさ)											3.0	0.48
	2 免震・制震・制振性能											3.0	0.80
	2.2 部品・部材の耐用年数		②									3.0	0.20
	1 車体材料の耐用年数		②									3.0	0.33
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②									3.0	0.23
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		②									3.0	0.23
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔		②									3.0	0.09
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔		②									3.0	0.08
	6 主要設備機器の更新必要間隔		②									3.0	0.15
	2.4 信頼性		②									2.8	0.19
	1 空調・換気設備		②									3.0	0.20
	2 給排水・衛生設備		②									2.0	0.20
	3 電気設備		②									3.0	0.20
	4 機械・配管支持方法		②									3.0	0.20
	5 通信・情報設備		②									3.0	0.20

3 対応性・更新性	②			3.5	0.48		-	3.5
				4.2	0.31			
				5.0	0.60			
				3.0	0.40			
				3.0	0.31			
				3.3	0.38			
3.1 空間のゆとり			階高3.9m以上を確保している。					
1 階高のゆとり				4.0	0.17			
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.17			
3.2 荷重のゆとり			天井ふとろは梁下でH300以上確保し、更新性に配慮している。					
3.3 設備の更新性				3.0	0.11			
1 空調配管の更新性				5.0	0.11			
2 排水管の更新性				3.0	0.22			
3 電気配線の更新性				3.0	0.22			
4 通信配線の更新性				3.0	0.22			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			
LR1 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制					-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			工場内はハイサイドライトを採用している。		4.0	0.28		4.0
3 設備システムの高効率化					3.0	0.43		3.0
4 効率的運用					3.0	0.29		3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00		
4.1 モニタリング					3.0	0.50		
4.2 運用管理体制					3.0	0.50		
集合住宅の評価					-	-		
4.1 モニタリング					-	-		
4.2 運用管理体制					-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護					3.4	0.15		
1.1 銓水					4.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			大便器の水使用量 6L以下/回 である。		3.0	0.60		
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67		
2 雜排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33		
2 非再生性資源の使用量削減					3.1	0.63		
2.1 材料使用量の削減	② 独自 独自				2.0	0.07		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24		
2.3 脱体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.20		
2.4 脱体材料以外におけるリサイクル材の使用					4.0	0.20		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	0.05		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					3.0	0.24		
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.6	0.22		
3.1 有害物質を含まない材料の使用					5.0	0.32		
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68		
1 消火剤					-	-		
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50		
3 冷媒					3.0	0.50		
ハロン消火剤を一切使用していない。					-	-		
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	①		ライフサイクルCO2の排出が一般的な建物と同等である。		3.3	0.33		3.3
2 地域環境への配慮					2.5	0.33		2.5
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.2	0.25		
1 雨水排水負荷低減	独自				3.0	0.25		
2 污水処理負荷抑制					3.0	0.25		
3 交通負荷抑制	独自		適切な量の駐車スペースを確保している。		4.0	0.25		
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25		
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40		
1 騒音	独自				3.0	0.33		
2 振動	独自				3.0	0.33		
3 悪臭					3.0	0.33		
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40		
1 風害の抑制					3.0	0.70		
2 砂塵の抑制					-	-		
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30		
3.3 光害の抑制					3.7	0.20		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					4.0	0.70		
2 亂反射光による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30		
特にサーチライト等広範囲に光が漏れ、影響が大きいものは使用しない。					-	-		

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:6.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{（評価点} \times \text{全体に対する重み})}{\text{重みの総和}}$
重点項目スコア=

④地域材の活用
重点項目スコア=評価ポイントの合計 + 1

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 八熊鍍金工業株式会社

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>ゆとりのある階高に設定することで、更新性に配慮した計画としています。</p>
Q1 室内環境	
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>更新性に配慮し、階高3.9m以上を確保しています。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>空地率の高い配置とし風の通り道を確保しています。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>工場内はハイサイドライトを採用しています。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>トイレには節水型便器を採用しています。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>周辺道路に路上駐車を発生させないよう、適切な量の駐車スペースを確保しています。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>